MeltWiligt

むかし、あるところに

小さなむらがありました

そこにはレーシャという

おんなのこがすんでいました。

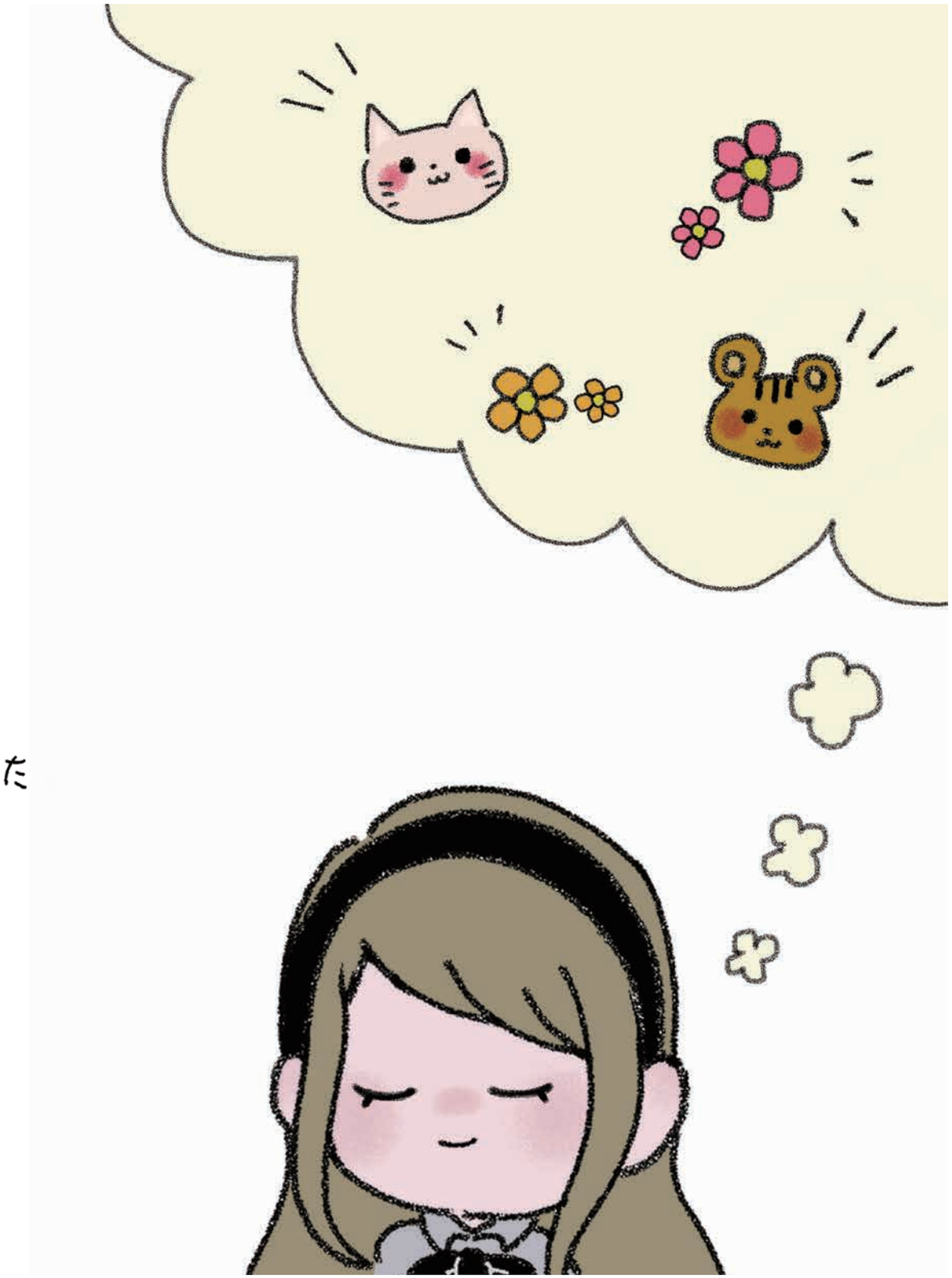
レーシャは森が大好きで、

この日も森にいったかえりでした。

森にはかわいいどうぶつや

きれいな花がたくさんあります。

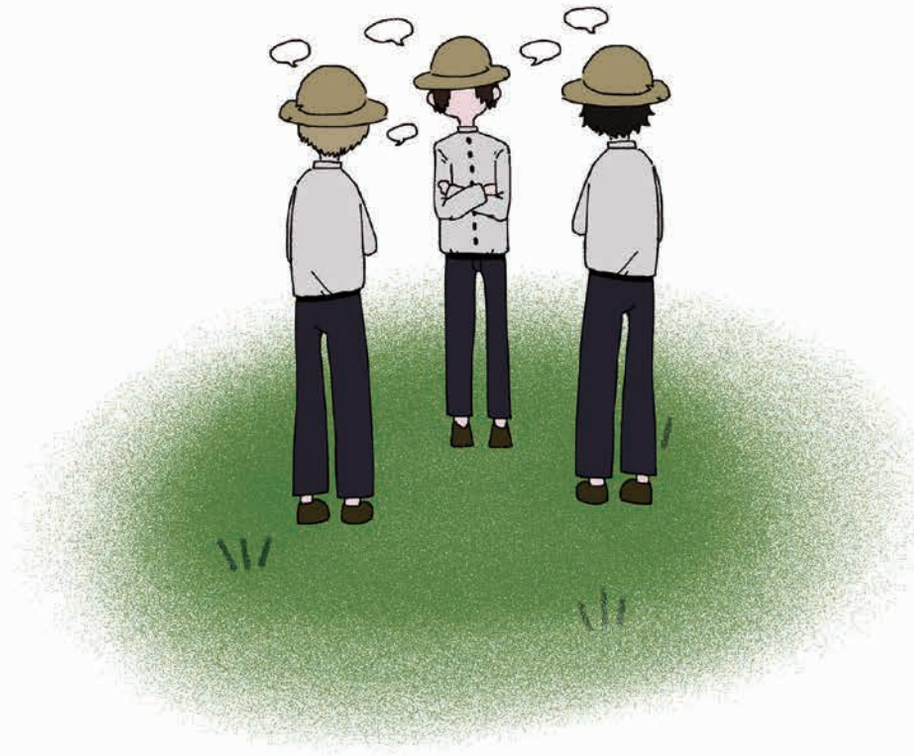
そんな森がレーシャは大好きでした



レーシャが森からかえると、

むらの男たちがはなしているのが

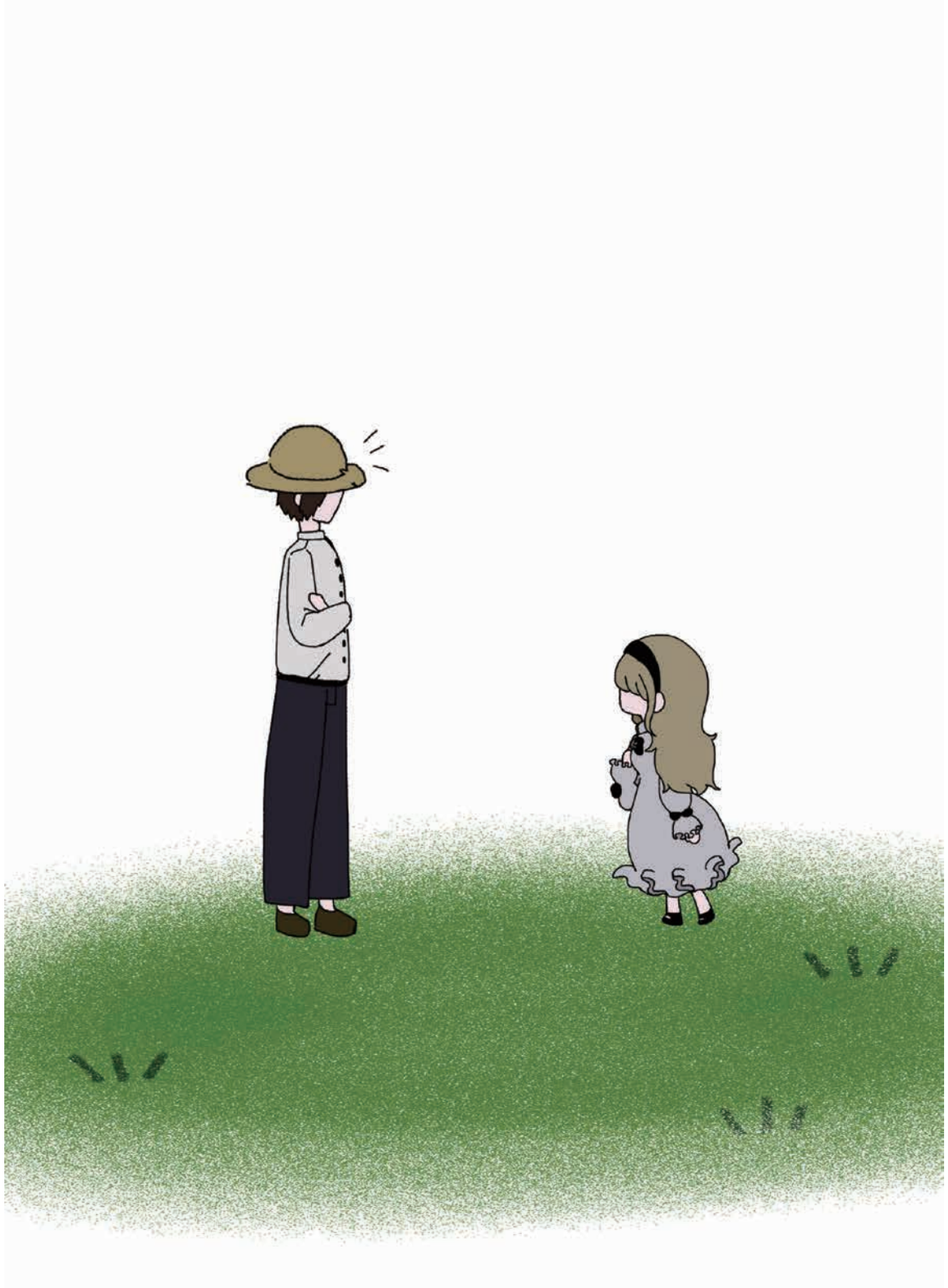
見えました。



「どうかしたの?」

レーシャがむらの男に

はなしかけました。

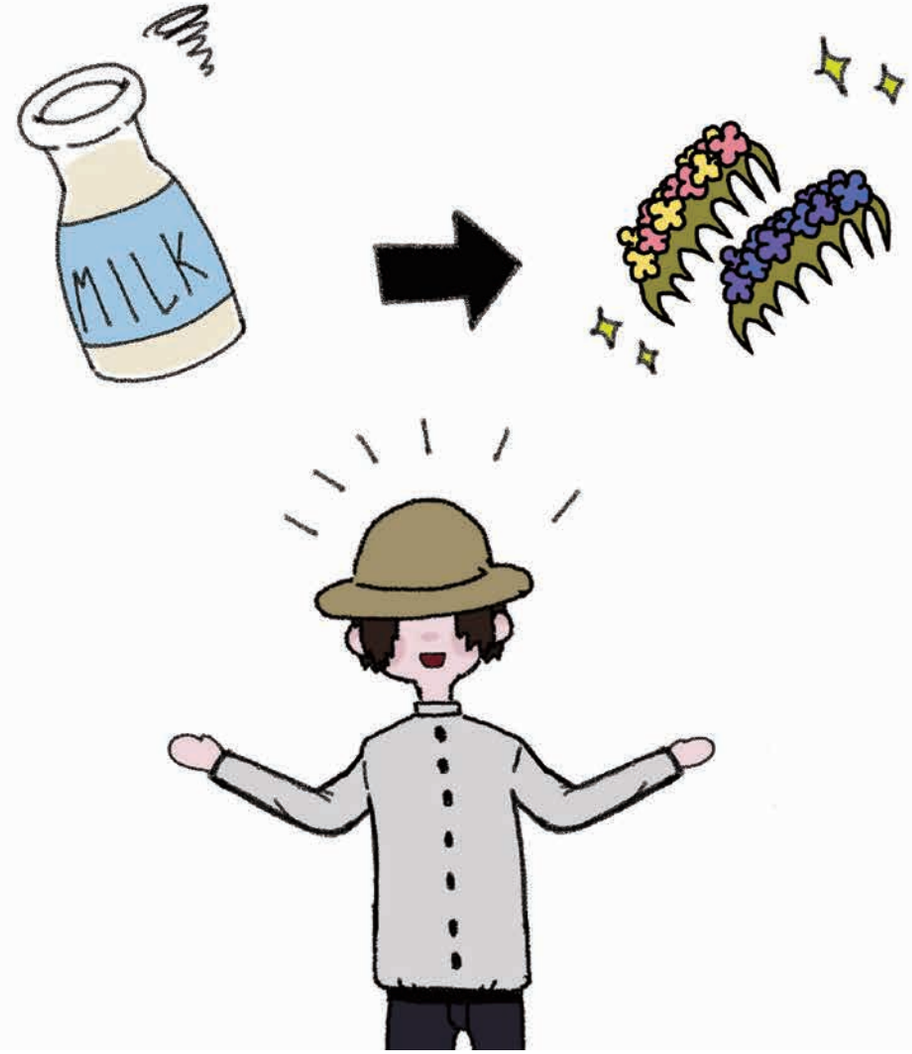


「じつはね、むらでつくったものが

うれなくてこまっていたんだけど、

さいきん良いものをうっているから

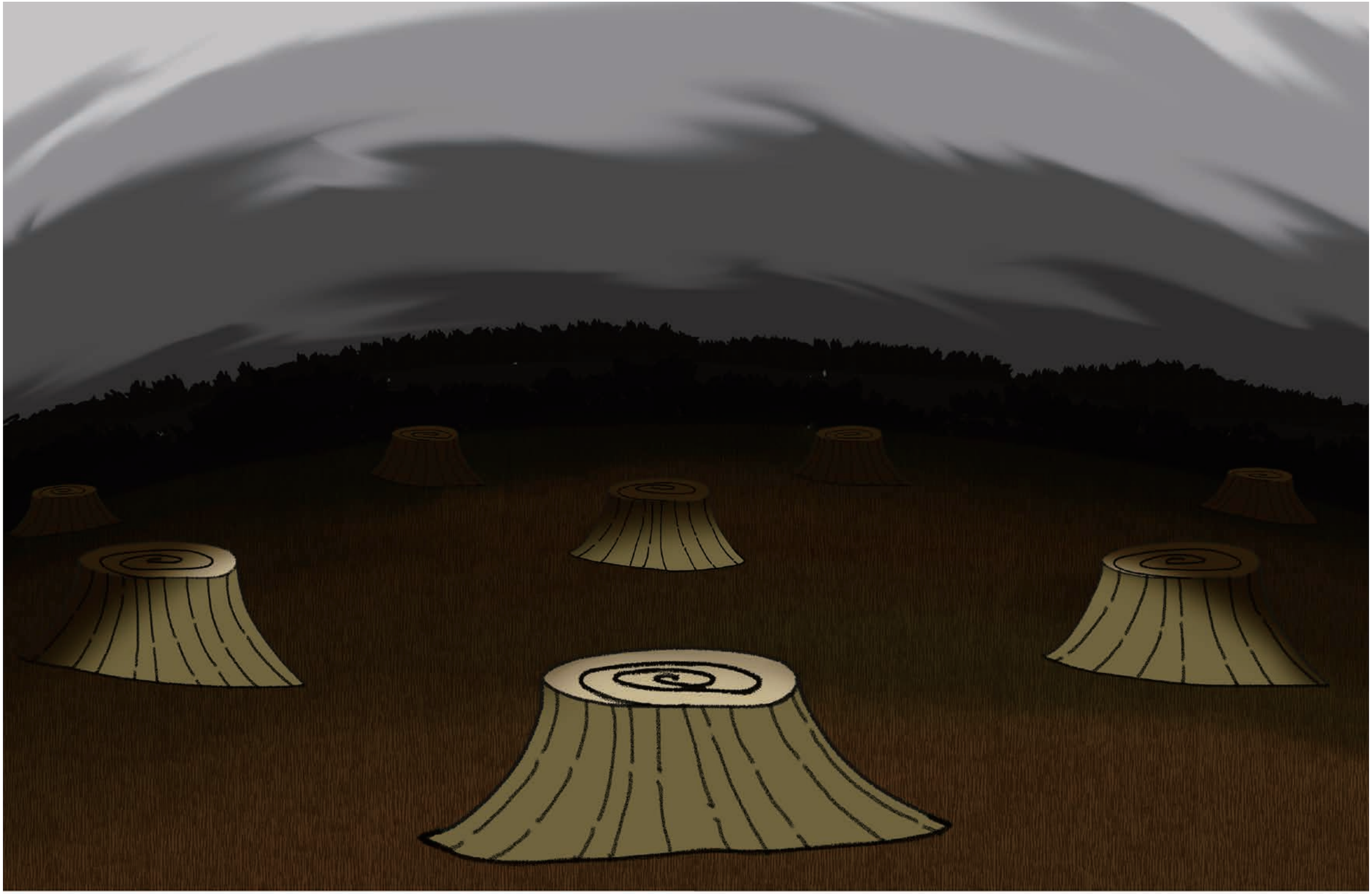
うれるようになったんだ」



「ほんとう！

どうやって良いものをつくったの？

「それはね…。」



「むらの外にある木をぜんぶ切ってたてものを作ったんだ!」

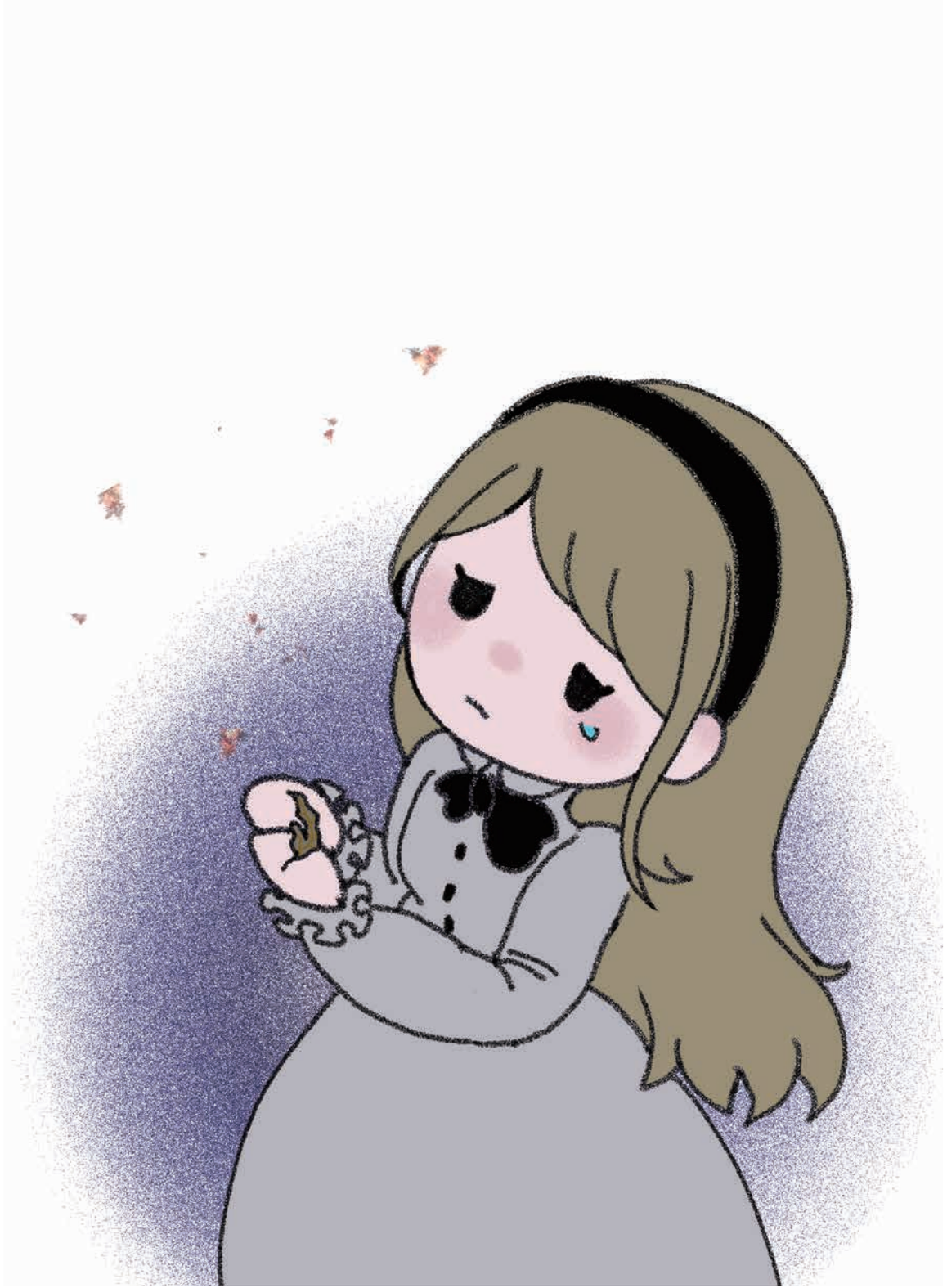
「これで良いものがたくさん作れるようになったよ!」

なんと、たてものを作るために

木をすべてきってしまいました。

レーシャの好きだった森は

なくなってしまいました。



むらの人たちでどんどん木を

きっていきました。

そうすることで、むらが良くなると

信じきっていました。

森がなければ

どうぶつたちは生きていけません。

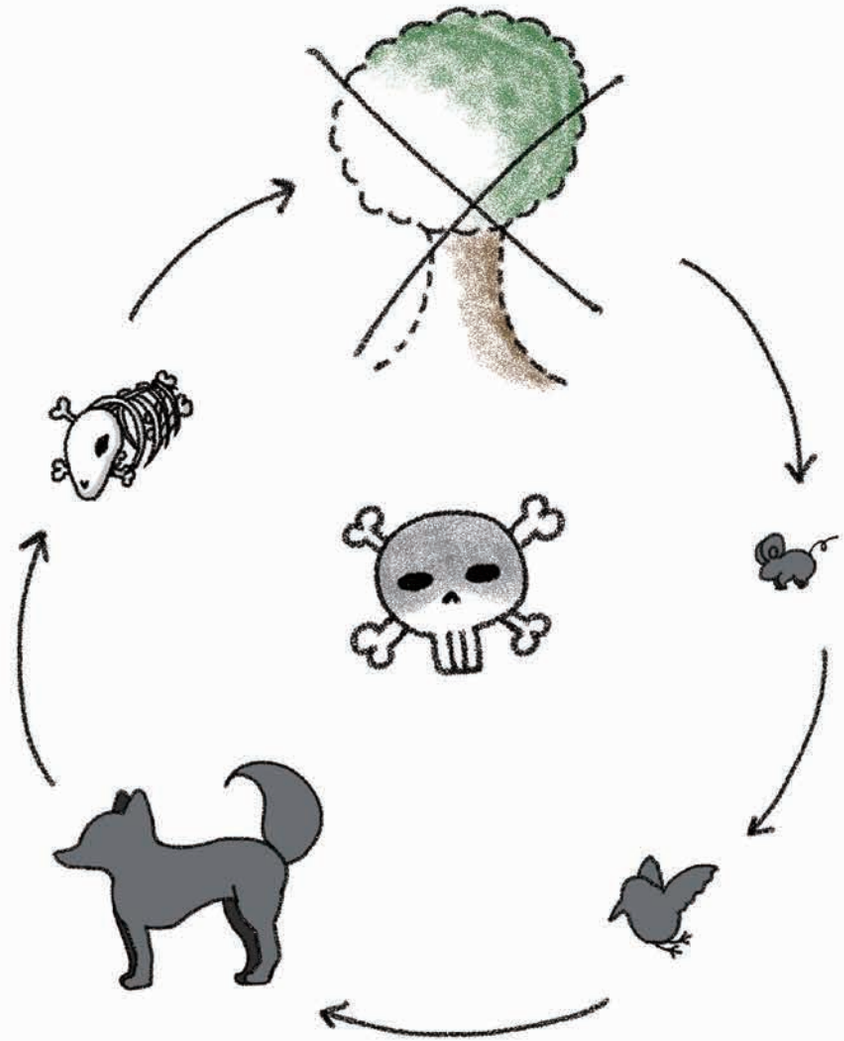
森もどうぶつたちがいないと

どんどんいなくなくなっていきます。

むらの人たちが木をきったことで

木も、どうぶつも、

すがたをけしていきました。



むらがはってんしたことで、

むらの生活が良くなっていきまし

皆もそれをよろこび、

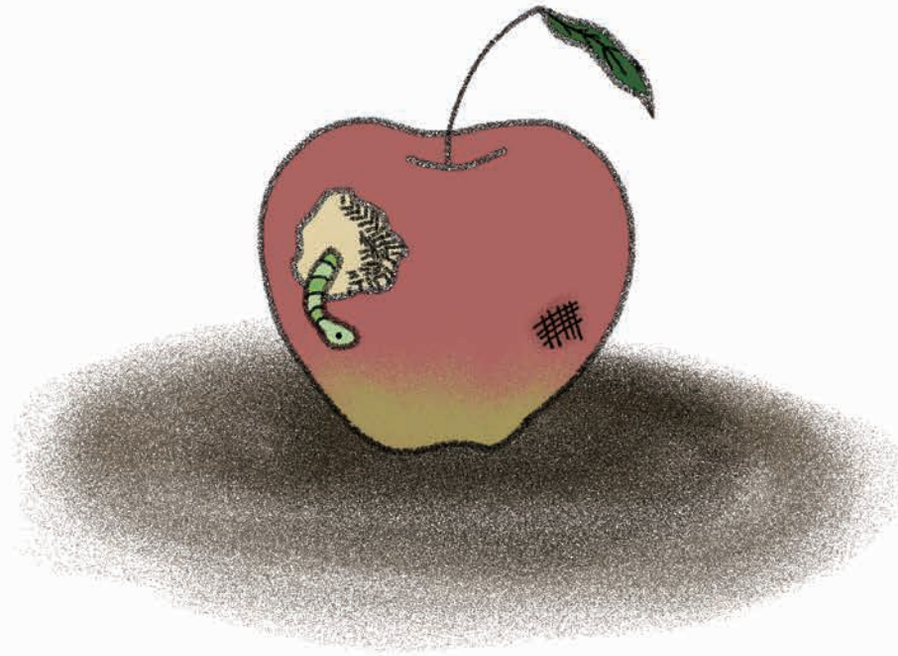
幸せな日がつづきました。

そのうちに、皆のろいを信じ、

木をきることをやめました。

どうぶつもいなくなってしまったので

食べ物も少なくなっていきました。



しかし、そのころから

むらで良くないことがつづきました。

これは木をきったことによる

のろいだという、うわさが

ひろがりました。

むらの人たちは木をきったことを

こうかいし、それいらい

オノにもふれなくなりました。

皆はんせいしたことで

むらのせいかつもいずれ

もとにもどるでしょう。

むらの人たちだって悪い人では

ないので、木やどうぶつも

ゆるしてくれるはずです。

ゆるさない